

# THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2024~2025年度 No.313

## 1 月報

那須クラブ会長 主題

ユースと共に那須YMCAの活動を探る



強調月間：EF  
JEF

**今月の聖句** ルカによる福音書 10章 16節  
あなたがたに耳を傾ける者は、私に耳を傾け、あなたがたを拒む者は、私を拒むのである。わたしを拒む者は、私を遣わされた方を拒むのである。

### 1 月第 1 例会 (新年例会)

日時：1月17日(土) 午前11時30分~

場所：「中華料理 龍鳳園」須塩原市西大和 1-7

0287-36-1202

ワイズ活動にご協力をいただいている、西那須野教会  
潘牧師ご夫妻、木村真喜子姉、田村有希子姉、西那須野  
幼稚園の福本ご夫妻とユースリーダーを御招待。多くの  
皆様のご参加をお願いします。この1年についてみんな  
で話し合しましょう。

司会 藤生 強 書記

会長 村田 榮

開会点鐘・挨拶

ワイズソング斉唱

ワイズの信条の斉唱

聖書朗読・祈祷

西那須野教会 牧師 潘 炯旭

ゲスト・ビジター紹介

会長

食前祈祷

原田 明子 メン

会食

自己紹介 1年の抱負

フリートーキング

報告事項

YMCA・ワイズ

YMCAの歌

閉会挨拶・点鐘

会長 村田 榮

会費 メン・メネット 3,000円

ご参加いただける方は、1月13日(火)までに村田まで  
ご連絡をください。

2025~2026年度 主題

国際会長：(IP) エドワード・オン (シンガポール)

『信念、愛、行動』

アジア太平洋地域会長：(AP) 田上 正(熊本むさしクラブ)

『信念と愛を持って行動しよう!』

東日本区理事(RD)： 山下 真(十勝クラブ)

『ワイズのらしさ再発見』

北東部長： 三田 庸平(もりおかクラブ)

「ユースと共に明るい未来を」

### クラブ役員

会長：村田 榮

副会長：田村 修也

書記：藤生 強

会計：鈴木 保江・村田 榮

担当主事：武田 将吾

ブリテン：田村 修也・村田 榮

### 12月例会データー (出席率：85.7%)

メンバー5名、メネット3名、ユースリーダー3名

ゲスト52名、(広義会員2名)

メイキャップ

### 1月 Happy Birthday

1/7 藤生 容子 メネット

1/14 藤生 強 メン

1/15 田村 暁美 メネット

### 2月役員会 (第2例会)

日時：1月17日(土) 午後2時~

場所：田村副会長宅

2月例会(リーダー報告会・卒業生感謝会)

日時：2月24日(火) 午後7時~

場所：西那須野教会

## 巻 頭 言

村田 榮

### つれづれなるままに

あけましておめでとうございます。2026年がスタートしました。この年はどのような活動を行っていくことになるのでしょうか。楽しみです。

2025年7月に田村修也メンよりバトンタッチをして、那須ワイズメンズクラブの会長に就任しました。

今期で那須ワイズメンズクラブが設立されて、30年を迎えました。設立時は30名を超えるメンバーでした。今期は、メンバーは7名でスタートしました。早いもので20周年記念式典をアジア学院で行って10年になります。今の力では、記念式典を行う話も出ません。申し訳ありません。

田村メンのお話によると、設立当時から、ユースリーダーの協力があって初めて那須ワイズメンズクラブの活動が成り立ってきたとのこと。しかし、ここ数年は、ユースリーダーの参加が少なくなっていました。

今年度は、ユースリーダーとの関係を深めたいと願っています。昨年度2月例会では、卒業するリーダーへの感謝の気持ちを伝えました。6月例会では、武田担当主事の司会で、リーダーとワイズの1対1での懇談の時を持ちました。7月からは、例会ごとにユースリーダーの参加をお願いしてきました。10月例会は、アジア学院の収穫感謝祭に、12名のリーダーが参加してくれて、射的コーナーをやってくださいました。11月例会では、第2回目の懇談会を開催しました。5名の参加でした。この次は、キャンプソングを共に歌、ゲームをする機会を作りたいものです。

12月例会では、3名のリーダーが参加してくれて、参加者のためにゲーム指導をしてくださいました。

12月例会は那須ワイズメンズクラブとしては、ここ15年程、恒例になっている養徳園の方々を招いてのパイプオルガンによるクリスマス讃美礼拝と祝会を開催して、多くの方々の参加で開催できました。

1月例会は、新年例会を行います。2月例会は、ユースリーダーの活動報告と卒業リーダーの感謝会を開催します。これらの活動は、日本基督教団西那須野教会の潘牧師ご夫妻をはじめ、教会員の協力があって、会場を提供していただき、毎月の例会が続けられてきました。感謝です。

今年度は、武田担当主事からの依頼があって、ユースリーダーが参加する研修会のために補助金を40,000円拠出しました。この資金は、シイタケ昆布の収益金が当てられています。

会費での活動よりも、シイタケ昆布の収益金で今の那須ワイズメンズクラブの活動が成り立っているといっても過言ではありません。

シイタケ昆布の販売は、姫路ワイズメンズクラブが行っていてよい資金づくりになるとのお話を聞いて、那須ワイズの皆さんと協議をして始めました。初めて、8年ぐらいになりますが、リピーターが増えてきて、1回の収益金は20,000円強あります。年間7回ぐらいの回数の仕入れです。これからよろしくお願いします。

すべての那須ワイズメンズクラブの活動が多くの方々の支えとご奉仕とご協力によって成り立っております。

皆さんのご協力により、新しい会員の入会があり、那須地域でのYMCA活動の発展があることを祈ります。



12月例会 クリスマス讃美礼拝・祝会 於：日本基督教団 西那須野教会 2025.12.20

## 12月例会(クリスマス礼拝・祝会)報告

日時：12月20日(土) 午後6時

場所：日本基督教団 西那須野教会

参加者：田村、藤生、原田、村田の各メン。田村、藤生、村田の各メネット、ユースリーダー3名、潘牧師ご夫妻、古川、高久、他西那須野教会関係者11名。ギデオン協会1名、里親会2名、やまびこ会2名。食事の準備としていただいた方々4名。養徳園35名。計65名。

恒例のクリスマス例会を、日本基督教団西那須野教会を会場に行いました。毎年招待をしている養徳園の子ども達と先生方、那須YMCAユースボランティアリーダー達、西那須野教会会員の方々、ギデオン協会の方などたくさんのゲストを迎え、メンとメネットも合わせると65名を超える参加を得て、楽しく賑やかに行われました。



初めは教会の礼拝堂を会場に、「例会の開会」と「キャンドルサービス

ス」を行いました。「例会の開会」は開会点鐘と会長あいさつを行いました。

「キャンドルサービス」は、YMCAリーダー2名が点火を担当しました。明かりを落とした礼拝堂の入り口から火の灯った大きなキャンドルの置かれた祭壇まで進み、そのキャンドルから手に持っている小さなキャンドルへ火を灯しました。そして小さな2つの火から参加者の持つキャンドルへ点火を行い始まりました。参加者一人一人の小さなキャンドルに火が灯ると礼拝堂は幻想的で厳かな雰囲気に包まれました。その中でパイプオルガンの伴奏によって讃美歌を歌い、西那須野教会潘牧師から『王が来られる』をテーマにメッセージを頂きました。『クリスマスおめでとう、とあいさつするのはなぜ』『今日読んだ聖書(詩編24章9-10節)には「城門よ、頭を上げよ・・・栄光に輝く王が来られる。・・・主こそ栄光に輝く王。」とある。王とは神様のこと。神様は私たちが救うためにイエス様を贈ってくれた。そのイエス様の誕生を祝う日がクリスマス。だからおめでとうとあいさつをする』『城門とは何か。それは私たちの心の門。門を開かないと神様を迎え入れることが出来ない』『私たちは、偉い人や尊敬する人が来たら、何を話せば良いか分からないので、関わるのが怖くなる』『例えば偉い人が私の部屋を訪ねた

いとなったら、片付いていないからダメと断りたくなる。でも神様は素晴らしいので片付いていなくても気にしないし、それを受け入れてくれる』『心の門を開けて神様を迎え入ると、その素晴らしさが私たちに伝わり、私たち自身が変わっていく』『心の門を開けて、素晴らしい神様を受け入れましょう。そしてイエス様に誕生おめでとうと伝えましょう』



次に教会の集会室を会場に「クリスマス祝会」を行いました。始めに食

事をしました。大きなテーブルの上にサンドイッチや唐揚げ、サラダなどたくさんの料理が並び、みんな美味しく頂きました。お腹が満たされた後は、YMCAリーダーによるゲームを楽しみました。養徳園の子ども達はもちろんのこと、大人も大いに盛り上がりました。その後「養徳園」「那須YMCAボランティアリーダー会」他、那須ワイズメンズクラブの関係団体へのクリスマス献金を贈呈しました。また「ギデオン協会」から「養徳園」「那須YMCAボランティアリーダー会」へ聖書の贈呈も行われました。



多くの参加者と共にクリスマスを祝うことが出来た「クリスマス例会」は、「神様の素晴らしさ」を感じたひと時となりました。

## 第2例会(役員会)報告

日時：11月20日(木) 午後6時～

12月4日(木) 午後4時～

場所：西那須野教会、田村副会長宅

出席者：田村、村田、武田各メン、田村、村田メネット

### 1. 12月例会について

12月20日(土)に日本基督教団西那須野教会にて、パイプオルガンによる讃美礼拝、祝会を行う。お話は、潘牧師、奏楽は、木村真喜子姉に依頼。養徳園の案内は、田村副会長に依頼。食事の準備は、田村有希子姉に依頼。ゲストに養徳園の人たち、ユースリーダー、中村さん、ギデオン協会、アジア学院、西那須野幼稚園、西那須野教会員他歓迎する。

養徳園へのプレゼントは、ミカン2箱。クリスマス献金。プログラム作成は田村副会長。教会に貼るポスターは村田が作成。リーダーによるゲームを依頼する。謝礼、潘牧師10,000円、木村真喜子姉5,000円、田村有希子姉5,000円、お手伝いの人3,000円×2。クリスマス献金先、養徳園、アジア学院、那須聖園老人ホーム、西那須野幼稚園各10,000円。クリスマスプレゼント、古川姉、高久姉、10,000円×2。会場づくりは当日の午後4時より、メインテーブルは卓球台。周りにテーブル7台と座る椅子を設置。駐車場は、幼稚園に依頼。会費は、メンバー1,000円、その他の方々は招待。

## 2. 1月例会について

1月17日(土)、午前11時30分～、龍鳳園で行う。場所の予約は、田村姉に依頼。招待者としては、潘牧師ご夫妻、中村さん、リーダー、その他お世話になっている方々(木村真喜子姉、田村有希子姉、古川姉、高久姉、福本夫妻、平山夫妻)。司会は藤生メン。プログラムは、ゲスト紹介、新年の抱負。会費は、メンバー3,000円。

3. 2月第2例会(役員会)は、1月17日の例会後、田村副会長宅。

## 4. 2月例会について

ユースリーダーの報告会と卒業リーダー感謝会とし、2月24日(火)午後7時から、西那須野教会にて行う。卒業リーダー男子3名、女子4名。

## 5. シイタケ昆布の購入

1月17日(土)の例会に合わせて購入する。各自の注文数は1月9日までに村田まで。

# 開拓と信仰の姿「開拓と西那須野教会」(15)

副会長 田村 修也

次に、田嶋 董(1875～1969、明治8年～昭和41年)に入らせて頂きます。

私が初めて西那須野教会で董さんにお会いしたのは、1958年(昭和33年)のことでした。高校卒業して浪人中のところ、高校のこわい先輩に誘われて教会にいったのです。董さんが83歳、私は18歳でした。その頃西那須野教会には、田嶋董さん、杉山千波さん、田嶋綏之さん、安富金三郎、高瀬勇さん、阿久津小信さん、安富かちさん、杉山波江さん、田嶋京子さん、それから若くなって西沢道夫さん、福本治夫、光子先生、そして私が礼拝に出席していました。

今から考えますと、もし、本日のように、話をするようになるなら、その時代を生きてこられた、ご本人から、生の証言を直に(じかに)お聞きしてお

けばよかった、と準備をしながらしみじみと思いました。知らないとは言え、生き証人と何年も一緒にいながら、間接的、断片的には触れられたようですが、ついぞ、直接、お聞きすることはありませんでした。たとえば、董少年はとても賢くて、矢板武さんには殊の外、可愛がられたそうだそうです。董さんは、どちらかと言うと無口な方でしたが、その分、沢山の記録を残してってくれました。それから、董さんの足跡を辿って行きたいとおもいます。

董さんは、二代目田嶋弥三郎の長男として1875年(明治8年)に群馬県の島村で生れ、尋常小学校を卒業するとすぐに上京して、中村敬宇の同文社東京英語学校で学びました。1887年(明治20年)に東京神田教会でソーパル宣教師から洗礼を受けました。12歳の時です。その3年後明治23年11月、16歳の時に、東京での学びを退学して、お父さんに従って開拓のために那須野が原にまいりました。

その時のことを董さんが日記に書いています。これを、董さんの三男、節男さんが読み解いていますので、それを紹介いたします。

明治23年10月4日、「我が家にては、先頃より那須開墾のために移住しようとの話があり自分は同意した。東京の金井之恭から那須に20町歩を買うことが出来たので、父は甲州へ行く途中に金井に立ち寄り、その代金三百円を払ってきた。いよいよ11月頃出発の順序である。」

10月8日「父は那須野に住家の製造を頼みに旅行。」

11月9日「本日は余が生涯において特記すべく而して最も祝すべき日にありしなり。然しながら、一方より甚だ悲しむべき日なり」と住み慣れた故郷を離れ、親しき人々とも別れて、広漠たる未知の原野、那須野の開拓のため、移住する初日の希望と感傷を記しています。当日は故郷熟知の人々が、送別のため出入りして混雑していた。日曜日だったので教会堂で安息礼拝に出て、午後4時我が家を出立した。明くれば11月10日。午前1時に起き、朝食をとり境町に至る。これが故郷の見納めかと名残を惜しんだが、未練は残さじと心を引き立たせて、伊勢崎停車場発6時の列車で見送り人に別れを惜しんで出立した。

同行5人。すなわち父、弟真澄、飯塚庄三、田嶋源三郎(父弥三郎の妹むこ、送り人)。

両毛線は乗客少なく、沿線は景色が良いので愉快であった。小山の盛大なものには驚いた。

それより石橋、宇都宮および2,3のステーションを経て、那須ステーション着。駅前川島屋旅館に

て昼食。(那須までは、当時半日の旅程だったことがわかります。)(以下次号へ)

## 西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園

認定こども園 西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光夫

先日、文部科学省の学校基本調査で、大学進学率などに使われる「18歳人口」の集計から、特別支援学校の卒業者が除外されていたことが、新聞報道で明らかになりました(2025年12月1日・毎日新聞)。

このニュースの検証はしていませんが、本当はどの子も同じように大切に、未来をつくる一人ひとりであるはず。文部科学省の調査では「数に入れない」という形で、特別支援学校の卒業者が見えなくされています。このニュースは、私たちに多くのことを考えさせます。

さて、幼稚園では来週から一足早くクリスマスを迎えます。

聖書に書かれているクリスマスのお話では、イエスさまの誕生の知らせが最初に届けられたのは、王さまでも祭司でもなく、羊飼いの人たちでした。羊飼いたちは、当時の社会では地位や財産がなく、家もなく、ローマの支配下でも「人」としてあまり大切にされていなかった人たちでした。また、当時のユダヤ人から軽蔑されていた外国人の博士達も誕生に同席しました。そんな羊飼いや博士達に、神さまはまっさきに「救い主が生まれました」と知らせたのです。これは、イエスさまが社会の中で弱い立場におかれていた人たちや疎外された人たちの側に立ち、その歩みに寄り添ってくださる方であることを示しています。

イエスさまの周りには、当時の社会から遠ざけられていた人、重い病を持つ人など、当時の政治的・宗教的権威のユダヤ教から、「関わってはいけない」とされていた人たちがたくさんいました。そして、関わることで自分が神を冒瀆することになる場合もありました。

イエスさまは、そうした人たちに自ら近づき、声をかけ、癒やし、励まし、その人たちを大切にしてくださいました。

また、イエスさまがお生まれになったとき、東の国から来た博士たちが三つの贈り物をささげました。

黄金は、弱い者の味方としての「まことの王」であること。乳香は、人と神さまをつなぐ「祭司」としての働きを表す香り。そして、死者に塗る没薬(もつやく)は、苦しむ人の痛みに関わり添うイエスさま

の歩みを示す香油です。

誕生の場面の中に、イエスさまがどんな思いでこの世界に来られたのかが、預言されています。今回のニュースは、社会的に弱い存在である子ども達の「見えにくさ」を私たちに気づかせてくれました。

しかし、クリスマスのお話は、そのずっと逆を教えてください。小さく見える人、弱く見える人、数に入れられない人のところへこそ、神さまの光が一番に届くのだということです。

今年のクリスマス、社会的に弱い存在である子ども達が、一人ひとり「かけがえのない存在」として祝福されていることを、あらためて感じていただければ幸いです。

(しらゆり'24年12月12日加筆修正)

## アジア学院だより

学校法人 アジア学院

アジア農村指導者養成専門学校

常務理事 荒川 朋子

8月、私はフィリピンのレイテ島に赴いた。ある国際NGOの現地プロジェクト視察がその主な理由だったが、戦後80年の8月にレイテ島に赴くことには特別の意味を感じ、行く前からやや緊張していた。

フィリピン中部に位置するレイテ島は、第2次世界大戦終盤、日米決戦の激戦地として知られている。実に約8万人の日本兵が命を落としたが、そのほとんどが餓死、またはマラリヤなどによる病死と言われている。言うまでもないが、現地住民もアメリカ兵も、この戦いで多数犠牲となっている。

訪れた島西部のビリヤバという町には、旧日本兵と旧フィリピン兵や住民の合同慰霊碑(戦後50年の1995年7月建立)がある。その町出身でアジア学院の卒業生の妻は、抗日ゲリラの司令官の孫で、しかも彼女はその日比合同慰霊碑が設置されている聖堂を管理する「レイテ西部地域フィリピン戦争退役軍人の子孫および親族の会」の代表を務めているという。彼女に案内され合同慰霊碑訪問が実現した。

合同慰霊碑が設置された敷地は高台にあり、そこからは美しく穏やかな海が臨まれた。こんな優しい海と自然に囲まれた島で、多くの命が想像を絶する苦しみ、無念のうちに消えたと思うと何とも言えない痛みを胸に覚えた。慰霊碑の裏側には「この碑はかつて敵対していた両国とその戦争退役軍人、およびその子孫が、両国間の過去の紛争が二度と繰り返されないことを願う共通の祈りを共有する新たな友好の時代を象徴しています。」と記されており、和解と平和を願う人々の強い思いを感じた。

この慰霊碑は、建設から10年ほどは日本からも

関係者が来て、地元住民との交流も続けられていたものの、近年はその機会も減り整備もされていなかった。しかし慰霊碑建設から30周年に当たる今年7月、節目を願った集会在アジア学院の卒業生の妻の呼びかけにより行われていた。地元政府に働きかけて敷地と慰霊碑の整備を行い、50人以上の人が集まって盛大に再建を祝ったという。

呼びかけをおこなった卒業生の妻は、その理由について「戦争中の歴史や記録を記憶に留めることは、それを伝えることができる人が少なくなっている今、特に若い世代に対して行うことが重要になっている。平和を築くために努力してきたのだから、戦争中の教訓を学ぶ必要がある。」と答えた。

レイテ島の住民はそれぞれが戦争に対する辛く複雑な思いと記憶を持っているが、それにもかからず、彼女のように平和構築に向けて行動を起こしている人がいることに深い感銘を覚えた。同時にそのような思いと行動なしには、戦争が無意味なことも、和解と平和への願いも醸成されない、つまり何も始まらないと思った。戦後80年。心に刻まれた重い教訓だった。

(上毛新聞 2025年9月7日「オピニオン21」掲載)

## YMCAだより

### 【北関東YMCAスキーリーダートレーニング2025】

12月13日～15日に群馬県の丸沼高原スキー場にてスキーリーダートレーニングが行われ、とちぎYMCAからは13名のリーダーが参加しました。

とちぎ、ぐんま、茨城、千葉の計4つの北関東YMCAのリーダーが集まり、スキーキャンプの理解・技術の向上・生活を共にするリーダーとしての資質向上を目的に2泊3日を過ごしました。

バスの道中ではそれぞれのYMCAで行っているバスレクリエーションをやったり、キャンプソングを歌ったりして、スキー場へと向かいました。

3日間のスキーでは今の自分の技術を上げること为目标にインストラクターと仲間と一緒に練習に励みました。



そして夜には講義によってスキーへの理解を深めたり、北関東の仲間とより仲が深まるようなプログラムをしたりして熱い夜を過ごしました。

今回のリーダートレーニングで学んだことをもとに冬、春のプログラムに繋げていきます。

### 【とちぎYMCA・那須YMCAの1月の予定】

1/4(日)～6(火) 冬っこ3DAYS〈雪あそび他〉

1/10(土) とちぎY野外クラブ(小学生)1月活動〈野外炊飯〉

1/25(日) ワンデイスキー

## ユースリーダーのつぶやき

- ①本名(リーダー名) ②学校名 学部なども  
③出身地④YMCAに入ったきっかけ⑤思い出に残った活動とその理由は?⑥今後の進路は?  
⑦YMCAに一言



①飯田遥斗(メッシ)

②国際医療福祉大学 保険医療学部 放射線情報科学科

③栃木県栃木市

④優しい先輩に誘われて初

めてみようと思いました。

⑤チョイス①「戦場ヶ原ハイキング2024春」

1年間のYMCAの活動の節目としてプログラムリーダーを行ったことで、今までの経験や今の自分の技量で何ができるかなど挑戦することができたから。

⑥診療放射線技師として安心安全な検査を行い、正しく患者さんの状態を撮影できる技師になりたいです。

⑦ここでの経験を生かして子どもたちに尊敬されるようなリーダーになりたいです。